

令和7年度 府中市立日新小学校 学校経営計画

校長 山田 隼士

はじめに

全ての教育活動において、以下の4つの学びを重視することにより、各教科等で目指す資質・能力、ひいてはこれからの社会で必要となる資質・能力の育成につなげます。

- ◆発見すること（意欲・好奇心・課題発見力等）
- ◆対話すること（コミュニケーション力・多様性等）
- ◆決定すること（自己調整力・批判的思考力等）
- ◆表現すること（実行力・表現力・責任感等）

持続可能な社会の一員となる児童を育むために、カリキュラム・マネジメントの充実に基づき、学習指導要領の着実な実施と教育活動の充実に向けて、学校全体で尽力します。

教職員集団全体で高め合い、不断の授業・業務改善に取り組みます。学び合うOJTの推進、「研究・研修による自分磨き」を通して、「教師力」「学校のチーム力」を一層向上させます。特に、昨年度までの校内研究の成果を活用し、振り返る活動を重視して学び向かう姿を育みつつ、話し合い活動を重視した学習展開による「思考・判断・表現力」の育成及び「読み・書き・計算」等の基礎的・基本的な「知識・技能」の定着を図ります。また、特別支援教育について、校内委員会を基盤とした個に応じた指導・支援を全教職員で協働するとともに、学習指導要領に即した指導と評価の一体化や授業改善推進プランによる授業改善や働き方の改革について、一層推進します。

「府中版コミュニティ・スクール」として、地域の教育財を生かした「地域とともにある学校」づくりに取り組み、「日新を誇る 府中っ子」を目指した府中市立小・中学校教育のキーワード「きづく たかめる つながる」を重視した教育活動を展開します。

創立47周年を迎えた本校の歴史と伝統を大切に、本年度の学校経営計画を以下に策定します。

I 目指す学校像と中期的目標及び方策

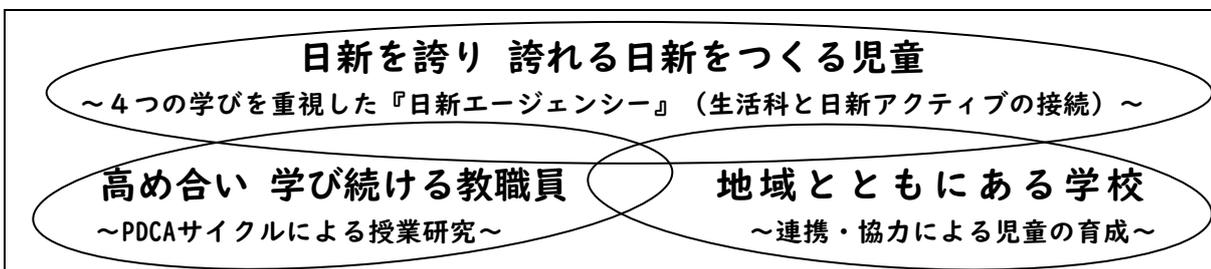
学校とは、「確かな学力」や「豊かな心」、「たくましい心身」及びそれらの育成を目指す資質・能力を育む安全・安心な場所であればなりません。また、第3次府中市学校教育プランには、「ふるさと府中に誇りをもち、世界に活躍する府中っ子を育てる」という基本理念が述べられています。

そこで本校の歴史と伝統や府中市の施策を踏まえ、教育目標を次のように定めます。

子供・家庭・地域社会の願いを受け止め、ふるさと府中を愛し、世界にはばたく府中っ子として、日々新たに伸びようとする、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子供を育成する。

◎かしこく(問題解決力) ○やさしく(人間関係形成力) ○たくましく(自己理解・実践力)

この学校教育目標を達成するために、以下の三つの柱を立て、目指す学校像を示します。人と人との思いやりや社会性を育む《日新三つの⑥》。教師自らが、資質向上を目指し、子供たちに範を示すための《高め合い 学び続ける教職員》。創立以来続いている保護者や地域との連携・協力を教育活動に活かす《地域とともにある学校》。特色や校風をより一層充実、発展させ、次のような児童や教職員の居る学校、保護者や地域・学校との関係を作っていきます。



(1) 「日新を誇り 誇れる日新をつくる児童」を育む学校

①豊かな心と基本的な生活習慣の確立

「人と人との思いやりー日新三つの⑥ ⑥いさつ(礼儀)・⑥つまり(自律)・⑥としまつ(共生)ー」は、教職員が学習モデルとなって取り組みます。相手を認める「あいさつ(礼儀)」は、社会生活の基本及びいじめ未然防止策であり、今年度も重点とします。また、定刻に集まる「あつまり(自律)」は、人を待たせずに大切にするという配慮と、自律するということです。「あとしまつ(共生)」はもと通りに、更には、ともに生きる次世代のためにSDGs等にまで思いを広げさせたいとの願いを込めています。

あいさつ（礼儀）	「あいさつで始まり、終わる」授業	「～さん」付けの呼称
あつまり（自律）	定時の登校	「チャイムで始まり、終わる」授業 「めあてによる児童の振り返り」のある授業
あとしまつ（共生）	「きれいな、教室・黒板・机」	「考えを聞き合い、話し合う」互いに高め合う授業

②基礎的・基本的な学習内容、言語に関する力の定着

話し合い活動を重視した学習のもと、振り返る活動を重視して学びに向かう姿を育みつつ、話し合い活動による思考・判断・表現力の向上とそれに関連付けた「知識・技能」の定着、習熟度別指導や個に応じた多様な指導方法（e ライブラリ等 ICT 機器の活用や家庭学習（10分×学年）をつなげた繰り返し学習を粘り強く指導します。下学年及び当該学年の基礎的・基本的な学習内容、言語に関する力の定着や活用力、児童の自己評価・調整力の向上を目指します。「世界とつながる英語 Enjoy Week」を活用し、1・2年「英語遊び」、3・4年「外国語活動」、5・6年「外国語」における系統的なコミュニケーション能力の素地作りに取り組みます。

③豊かな知性と感性を伸ばす読書活動

朝の読書、前・後期の読書旬間、図書学校支援員や図書ボランティアによる読み聞かせ、読書時間の目標（全学年毎日10分以上）や読書量の目標（年間1・2年生100冊、3年生以上は学年×1000ページ）の設定等により読書マスター（読書目標達成した児童）を増やします。また、学習への情報収集としての図書館活用等を通して、興味・関心を高めるとともに、豊かな知性と感性を育みます。

④たてわり班（わくわくタイム）活動の充実

年間の異学年交流活動を通して、児童の主体性や社会性、高学年のリーダー性や思いやり、責任感を育みます。同時に、下学年児童にはリーダー学年になることへの見通しとあこがれをもたせます。

⑤4つの学びを重視した『日新エージェンシー』の推進

生活科及び日新アクティブの接続に留意しつつ、4つの学び「発見すること」「対話すること」「決定すること」「表現すること」を重視した問題解決学習に取り組みます。テーマを「地域・まちづくり」「歴史・文化」「自然・環境」「ボランティアマインド」「東京2025デフリンピックに関連付けた障害者理解」等として取り組み、本校ならではの地域教材を活かした学習内容をもとにします。さらに、府中市のよさや課題等を見出し、本市の未来について検討して下学年等に向けて発表する等キャリア教育にもつなげ、本校を誇り 誇れる本校をつくる児童を育成します。同時に、「未来へつなぐ府中2020レガシー」を推進させます。

(2) 高め合い、学び続ける教職員のいる学校

- ①これからの授業では、言語活動及びICT機器の効果的な活用を一層充実させ、「主体的・対話的で深い学び」を取り入れます。意図的計画的に話し合い活動を組み込みながら、考えを深めたり、考える楽しさを味わったり、自己を振り返って調整したりする学習体験を更に増やします。
- ②校内研究会では、検討・協議を通して授業力向上を図ります。各教科や道徳科等の学びと相互に関連付け、児童が主体的に課題解決を図るとともに、自己有用感を高めていくことをねらいます。また、校内研究会での学びを日々の他教科等指導の在り方にも織り込み、教師自身が児童の学習モデルであるとの自覚をもって、組織的に研究・研修を進めます。
- ③府中市教育研究会に参加し、教師自身が東京都から求められている教育公務員としての素養及び各職層の職務内容を実践するとともに、自己申告等を活用したPDCAサイクルにより、教師自身が課題解決を図りながら、自己評価能力及び自己教育力を伸ばさせていきます。

(3) 地域とともにある学校

- ①心身ともに健康な児童の育成をするために、本校の伝統と地域の教材を活かして連携・協働します。また、基本的な生活習慣の確立、6～9月の熱中症予防要配慮期間での教育活動の工夫や情報モラルや防災教育等を通して、児童・保護者の安心・安全を推進します。
- ②就学前及び義務教育期間の9年間で、関係する幼保小や小・中学校等との連携を図りながらESDの視点に立った学習・生活指導で重視する「学び」や「育ち」の育成を図ります。
- ③府中版コミュニティ・スクールとして根幹をなす、地域教材を活用した課題解決学習「日新エージェンシー」で、「未来につなぐ府中2020レガシー」「世界とつながる英語 Enjoy Week」「近隣保育園児との交流活動」「日新小の実のなる木」「餅つき・丸餅作り」「ふるさと府中と菊づくり」等を実践します。小中連携教育での「学びと育ち」、青少対主催の地域行事や文化センター祭り、夏休み中のPTA行事「肝試し、ラジオ体操・美化活動」など、地域の方々や関係諸機関・諸団体に支えられた見学や観察等の体験的学習等、地域の伝統や教育資源及びを活かしながら、創意工夫し、発展的改善を目指します。

(4) 学校経営の基盤となる事業

学校経営支援予算を活用し、特別支援教育が全教育活動のベースとなるよう、次の取組を拡充する。

- ①「読み・書き・計算」等基礎・基本内容 への個別的指導
- ②読書活動・図書館利用への指導及び諸取組
- ③多様な要配慮児童への対話的な指導・支援及び適正な就学・我が子理解への組織的な保護者啓発
- ④不登校傾向児童・保護者への支援（サポートルームの活用、家庭と子供の支援員の活用、保護者面談等）

2 今年度の取組目標と方策 (◎は、重点目標とその方策)

* 目標と方策は、1対1対応ではなく、関連性複数対応として明示。

項目	取組目標	方 策
(1) 学 校 運 営	<p>○職層に応じた求められる姿の具現化を図るとともに、学校組織を活用し、的確かつ効果的・効率的な教育活動の展開や各課題への対応を行う。</p> <p>◎コミュニティ・スクールとして、学校関係者・地域の教材等を活用し、本校ならではの教育活動を効果的に展開する。</p> <p>○各種研修の積極的参加により、必要な資質・能力を養う。</p> <p>◎体罰等不適切な指導の根絶、個人情報保護など、サービス事故ゼロを実現する。</p> <p>○組織体制を活かして、重層的な人材育成を図る。</p> <p>◎特別支援教室拠点校としての特別支援教育の具体的手だてを展開して推進を図る。</p>	<p>① 担当する教育活動の効果的・効率的な推進に向け、校務分掌組織の主任を中心に、分掌組織等で検討を行い、実施案について具体的に計画・起案する。事後に次年度の改善計画の作成・起案を行い、適切に進行管理（カリキュラム・マネジメント）を行う。</p> <p>② 地域の伝統や教材を活かした本校ならではの「日新エージェンシー」について、スクール・コミュニティ協議会や地域コーディネーター、保護者・地域のゲストティーチャー等と計画的に連携して実施し、充実を図る。</p> <p>③ 人権やいじめ防止研修、食物アレルギー・嘔吐処理研修、ICT研修児童理解研修等での研修について、計画的・効果的に実施する。</p> <p>④ 校内OJTや伝達研修を実施する。特に、学年及び校務分掌組織の主幹・主任教諭は、全教員に対して学習指導力及びその他の資質・能力を計画的に育成し、確実な人材育成を行う。</p> <p>⑤ 特別支援コーディネーターを中心に、児童理解及び特性に応じた個別指導・支援について、効果的に指導助言する。</p> <p>⑥ 関係諸機関との組織的な連携のもと、多様な要配慮児童や不登校傾向児童への工夫した指導・支援及び適正な就学を多角的・計画的に実施し、保護者の我が子理解を啓発する。</p> <p>⑦ 支援レベル1～3の教育活動について、巡回指導教員、特支コーディネーター、SC等との協働体制で、児童理解に基づいた支援を具体化して段階的に実践する。</p>
(2) 学 習 指 導	<p>◎振り返りを重視した学びに向かう姿の育成⇒「思考力・判断力・表現力」の向上、「知識・技能」の定着について、工夫して習得できるようにする。</p> <p>◎「日新エージェンシー」で、児童の問題解決的な学習活動を展開し、下学年に発表する。</p> <p>○「主体的で対話的な道徳科」の授業づくりを図る。</p> <p>○自らの健康に関心を持ち、すすんで運動に親しむ児童を育成する。</p> <p>○学年・専科等で連携し、家庭学習を工夫する。</p>	<p>① 問題解決的な学習を位置付け、振り返る活動や話し合い活動の充実やICT機器等の効果的な活用により、主体的・対話的で深い学びにつなげる。</p> <p>② 4つの学びを重視した問題解決学習により、友達と協働しながら合意形成や課題解決を図らせる。</p> <p>③ 「議論する道徳科」に関する自己研鑽・OJTに努めるとともに、保護者と連携して道徳的実践力を身に付けさせる。</p> <p>④ 「英語 Enjoy Week」、プログラミング、SDGs、「生命の教育」など今日的な教育課題についての指導を確実にを行う。</p> <p>⑤ 授業では「導入」の効率化、主活動及び振り返り時間の確保を行う。</p> <p>⑥ 休み時間の外遊びの奨励、教員の積極的な参加に努める。「ふちゅうロープチャレンジ」集会を計画的に企画し、児童がすすんで体力を養う取組を設定する。日常の健康安全と保健指導・学習との関連を図り、指導する。全学年、発達段階に応じた「SOSの出し方に関する指導」を行う。</p> <p>⑦ タブレット端末の活用など、特性を考慮した家庭学習を工夫する。</p> <p>⑧ 特殊音節の読み書き、四則計算の筆算等、下学年の基本的な学習内容</p>

	<p>◎認知特性のある要配慮児童、下学年の学習内容未定着児童への個に応じた指導・支援を計画的に実施する。</p>	<p>の定着に向けた個に応じた指導及び家庭学習について、家庭との連携のもと、計画的に実践する（学校生活支援シート・個別指導計画による保護者との合意形成と協働実践の具現化）。</p> <p>⑨連携型個別指導計画により、課題解決に向けた個別・小集団活動を工夫しながら、保護者・学級担任と協働する。</p>
(3) 生活指導・進路指導	<p>◎すすんで日新の三つの「あ」に取り組む児童を学年等体制で育てる。</p> <p>◎全教育活動を通して、人権意識を醸成する。</p> <p>◎当年度日新小さいじめ防止基本方針に基づき、いじめのない学級・学年・学校をつくる。</p> <p>◎不登校等への柔軟な組織的対応、保護者・地域に開かれた安定した学級・専科、学年経営を展開する。</p> <p>○キャリア・パスポートの活用。上・下学年間での授業実施。</p>	<p>① 学年等で挨拶の取組：学級→学年→全校への発信を具体的に工夫・計画し、実践する。</p> <p>② 「挨拶で始まり挨拶で終わる授業」、3～6年で人権作文コンクールへの参加、言語環境（児童・教職員・掲示物等）の整備等の取組を学年等で実践する。</p> <p>③ 各学年等で、「自分も友達も大切にする」取組、いじめ防止に向けた学期1回の授業や研修を具体的に工夫・計画し、実践する。</p> <p>④ 学級・専科経営について「つかむ1学期」「深める2学期」「広げる3学期」を展開し、授業交換の体制等で人間関係形成力を育む。</p> <p>⑤ 不登校傾向児童について、学校生活支援シートと個票を作成し、サポートルームや学校と家庭支援員等の活用等、組織的に取り組むとともに、次年度への引き継ぎを確実にする。</p> <p>⑥ 下学年に学習経験・成果を伝え、上学年をモデルとしてあこがれるようなキャリア教育の取組を、2・3学期に実践する。</p>
(4) 特別活動	<p>○異年齢活動を推進し、児童相互の思いやりの心や協働の気持ちを育てる。</p> <p>◎児童の居場所を作り、生き生きとした学校生活を送れるようにする。</p>	<p>① 学年で連携して、発達段階に応じた学級会活動を指導する。</p> <p>② たてわり班活動、クラブ活動や委員会活動の工夫・充実を図る。</p> <p>③ 望ましい人間関係の育成に向け、集団の一員として学校生活づくりへの参画意欲と実践力を育てる学級活動・学年集会等を展開する。</p> <p>④ 各学校行事や集会等の意義を踏まえ、そのねらいの実現に向け、事前・事後指導との関連を図りながら、指導を工夫する。</p>
その他	<p>○幼保小での連携した取組を充実させる。</p> <p>◎「府中っ子」「日新を誇る児童」の育成を推進する。</p> <p>◎家庭・地域との連携を工夫し、推進する。</p>	<p>① 近隣の保育・幼稚園との交流等及び就学に向けた情報入手・準備等を、当該分掌・学年等において一層工夫する。</p> <p>② (3)⑥の取組により、「日新を誇る児童」の育成に向けて各児童に価値付けるとともに、学年だよりや保護者会で周知する。</p> <p>③ 保護者・地域啓発に向け、日新小だより・学年だよりの継続的に発行し、PTA・地域行事等への児童・保護者の参加を募る。</p>
(5) 能力開発・その他	<p>◎校内研究を基盤として、以下の4つの資質・能力について、改善及び向上を主体的に図る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>i) 学習指導力 ii) 生活・進路指導力 iii) 外部との連携・折衝力 iv) 学校運営・組織貢献力</p> </div> <p>●サービス事故ゼロを実現する。 ●自らの働き方の改革に臨む。</p>	<p>① 自己申告を活用し、教職員の自己評価能力を主体的にはぐくむ。</p> <p>② 東京都から期待される各職層の職務内容を自覚して職務を行う。</p> <p>③ 担当職務や日常業務について、校内OJT、取組目標の設定などを通して、左の4項目に関する自己の資質・能力の向上を図る。</p> <p>④ 校内研究、府教研、各種研修・研究会等へ積極的に参加し、自己研鑽を図る。</p> <p>⑤ 職務内容における過去のデータ活用、職務行動の効率化を図る。</p> <p>⑥ 学年・校務分掌組織で効果的に分担・連携・協力し、PDCAサイクルに基づいて校務改善を図る。</p> <p>⑦ サービス事故ゼロに向け、教育公務員の自覚をもち各教職員が重要事項について主体的に判断・実践を通して、保護者等の信頼を得る。</p> <p>⑧ 自らの働き方について具体的に目標設定をし、取り組む。</p>

令和7年度『4つの学び』
発見すること 対話すること
決定すること 表現すること

「ふるさと府中に誇りをもち、世界に活躍する府中っ子」

< 教育目標 >

子供・家庭・地域社会の願いを受け止め、ふるさと府中を愛し、世界にはばたく府中っ子として日々新たに伸びようとする、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子供を育成する。

◎かしこく(問題解決力) ○やさしく(人間関係形成力) ○たくましく(自己理解・実践力)

< 目指す学校像 >

日新を誇り 誇れる日新をつくる児童

～ 4つの学びを重視した『日新エージェンシー』（生活科と日新アクティブの接続）～

高め合い 学び続ける教職員

～ PDCAサイクルによる授業研究～

地域とともにある学校

～ 連携・協力による児童の育成～

< 日新を誇り 誇れる日新をつくる児童 >

- ① 「日新三つのあ」
 - ◎ 「あいさつ（礼儀） あつまり（自律） あとしまつ（共生）」基盤とした学校生活
- ② 基礎・基本的学習内容及び振り返り力の定着
 - チャレンジタイム、タブレット端末等の活用による個別的指導
 - 家庭学習の工夫
 - ◎ 問題解決型学習、話し合い活動、ワークアウトの活用
 - ◎ 「世界とつながる英語Enjoy Week」の充実
 - ◎ 「10分×学年」の家庭学習習慣の確立
- ③ 豊かな知性と感性を伸ばす読書活動
 - ◎ 読書マスター及び学校図書館利用による読書への興味・関心、知性・感性の向上
 - 1・2年生 100冊以上、3～6年：学年×1000ページ以上
 - ◎ 他教科等との関連付けや読書活動の工夫
- ④ たてわり班活動の充実
 - リーダーを中心に、主体的に楽しむ活動
- ⑤ 「日新エージェンシー」の推進
 - ◎ 課題解決学習：生活科&日新アクティブの接続
 - ◎ 「府中っ子」「日新を誇る児童」の育成
 - ◎ 地域教材を活かした伝統ある教育活動
 - 5年「餅つき・丸餅作り」、6年「菊作り」

< 高め合い 学び続ける教職員 >

- ① 話し合い活動による「主体的・対話的で深い学び」問題解決的学習の実施及びICT機器の効果的活用
 - ◎ 職層に応じた教師同士による、高め合い・学び合い
 - ◎ 自己申告及びPDCAサイクルに基づく授業力向上
- ② チーム力を活かした校務分掌や組織運営
 - ◎ 連携・協働・創意工夫で教職員のチーム力を発揮
- ③ OJTによる人材育成 ◎ 服務事故ゼロの実現
- ④ 児童の実態に学ぶ生活指導全体会・児童理解研修会・毎週の生活指導夕会に基づいた共通実践
 - ◎ いじめ、不登校に対する柔軟な組織的対応
 - ◎ 「つかむ1学期」「深める2学期」「広げる3学期」
- ⑤ 特別支援教室「ひばり」拠点校：特別支援教育の推進
 - ◎ 認知特性等を考慮した分かりやすい授業や学習環境
 - ◎ 学校生活支援シート・(連携型)個別指導計画の活用及び特別支援教室「ひばり」教員との協働
 - ◎ 特別支援コーディネーター4名を柱とした組織的な校内委員会による教育相談体制の推進と保護者への啓発と連携

< 地域と共にある学校【府中版コミュニティ・スクール】 >

- ① 保護者・地域と協働する、規範意識や「自分を大切に 友達を大切に」する心の育成
 - ◎ 道徳授業地区公開講座(学校懇談会) ○ 関係諸機関や諸団体との連携強化
- ② 開かれた学校・地域に根ざした教育の推進
 - ◎ 開かれた学校としての授業と行事の公開 ◎ スクール・コミュニティ協議会、学校保健委員会
 - 保護者・地域と連携した特色ある行事・活動 ○ 日新小だよりやホームページ・ブログの充実
 - 幼保小連携や小中連携教育の八中学校区の協働による、連続性のある「学び」と「育ち」の連携
- ③ 児童の安心・安全の確保 ○ 青少対との情報交換 ○ サポートルーム・学校と家庭の支援員の活用

< 伝え引き継ぎたい伝統・校風 >

「日新エージェンシー（生活科・総合的な学習の接続）」等
「日新ランド」「まちたんけん」「保育園児との交流学习」「地域見学」「どんと焼き見学」「お囃子体験」
「日新小の実のなる木」「東京2025年7月16日に関連させた障害者理解学習」「箏演奏体験」「5年水田プロジェクト、餅つき・丸餅作り」「6年ふるさと府中と菊作り」「5年わくわく自然教室」「6年日光移動教室」「ボランティア集会」
PTA・保護者ボランティアによる「夏休みの肝試し大会・ラジオ体操・美化活動」